

成功を邪魔する存在

こんにちは、西（資格とっ太郎）です。
お読みいただきありがとうございます！

前回、“成功の秘訣は素直さにある” という内容のレポートを配信しましたが、

今回のテーマは、

「成功を阻むもの（邪魔するもの）」

です。

僕は今までいろんな方々のサポートをさせていただいてきて、現在進行形でも多くの方を
サポートしてもらっている立場にあります。

その中で気が付いたことというか、事実としてあるのが、

“何か新しいことを始めようとしたときに、必ずと言っていいほどそれを邪魔するものが
出てくる”

ということです。

これ、結構大事なことなので頭の片隅くらいには常に置いて欲しいのですが、

新しく勉強を始めて資格を取るとか、ビジネスを勉強して個人事業を始めるとか、

人が成長するためには、新しい何かを始めることがあります。

が、何か新しいことを始めようとすると、

必ずと言っていいほどそれを邪魔するような問題が身の回りで頻発する時期があります。

起こる問題は、人によって違います。

夫婦関係かもしれないし、仕事関係かもしれないし、あるいは親子関係かもしれません。

一見、新しく始めることとは関係ないようなところで問題が発生することも多いです。

一例を挙げましょう。

僕が電気塾でサポートさせていただいている中で非常に多かったのは、長期出張です。

試験の直前の時期とかに、長期の海外出張を職場から命じられたりして、勉強どころではなくなってしまうたり、

勉強を始めた瞬間（入塾してすぐ）に、急に仕事が忙しくなって残業が続き、勉強する時間が無くなってしまふ。

あとは、親戚関係・友人関係とかで面倒な問題を持ち込まれてしまふ、っていう方もいましたね。

こういう事は普通に起こります。

「なんで今なの！！」

っていうタイミングで。

これは、「偶然」起こるわけではなく、なかば必然的に“起こってしまう”現象です。

よく、人気のドラマとか映画でも、主人公が順調に事を進めて上手くいくわけではなく、

必ず主人公の道を阻む存在が良いところで現れて、壮絶な邪魔をしてくる描写が必ずと言っていいほど描かれますよね？

なぜこういう描かれ方をするのかというと、人間が普遍的に持っている物語に惹かれるパターンだからです。

普通、一人の人の人生において、全ての事がスムーズにエスカレーターで運ばれるように一直線で上手くいく、みたいなことは無く、

成長しようとする行動を続けていくと、必ず要所要所で“難関”とか“試練”みたいなステージがあります。

規模の大小はあるものの、どんな人にも成長の過程ではそういうステージが存在するわけですね。

つまり、日常生活の中で普通に起こる現象だからこそ、物語の中でそれを象徴するような事態が描かれることで

人は描かれた物語の中に（無意識的に）自分の人生を重ね合わせてその世界に感情移入してしまう、というわけです。

こういうのを物語の世界では「神話の法則」と呼ばれていて、大ヒットする映画やドラマ（総じて「物語」）の中では必ず取り入れるパターンです。

（ちなみに神話の法則には、「難関・試練」以外にも数多くの“パターン”が存在します。）

こういう“難関”とか“試練”って、物語の世界だから起こる、というわけでは決してなくて、

日常に起こる現象だからこそ、それが物語の世界で描かれることによって人はその世界に魅了されてしまう、

ということです。

ちなみに、これは僕も例にもれずこういう時期を経験しています。

僕はある時期から、個人で起業することを決意して勉強を始めました。

そして、それとほぼ時を同じくして、めちゃくちゃ仕事が忙しくなりました。

人手不足を理由に、半ば押し付けられる形で新製品開発のプロジェクトリーダーを任せられ、さらに他の新製品開発のプロジェクトメンバーも兼任しなければならないような状況になり、

リーダーを任されているプロジェクトの方も、人手不足を理由にメンバーがどんどん他のプロジェクトへ引き抜かれ、実質一人で実務をやらなければならないような状態。

単純に仕事量は2.5倍くらい、達成難易度は5倍くらいに跳ね上がった時期があります。

そして、起こるべくしてあらゆる問題が同時多発テロ的に発生しました。

上司に相談するも、その上司すら手いっぱい病気寸前。

(実際、僕が頼りにしていた前任のプロジェクトリーダーである先輩はほどなくして病気で休業しました。)

絶望的なほど追い込まれ、結局、精神安定剤を服用しながら無理くり仕事をこなすしかない日々に突入。

と、こんな感じで。

おそらくですが、メール講座を読んでいる人の中にも、こういう当時の僕と似たような(もしくはそれ以上の)“絶望感”に悩んでいる方はかなり多いんじゃないかと思います。

このメール講座を読んでいるくらいですから、多分、かなり多くの方が次のステージへの過渡期(移り変わる時期)にいると思うんですよね。

神話の法則で言うところの“試練の時期”。

こういう時期を、
「アイデンティティクライシス期（自己喪失期）」
と呼ぶ人もいます。

なぜこういう現象が起こってしまうのか？

もちろん理由はいろいろあるのですが、その理由を理解することはあまり重要ではありません。

それよりも大事なのは、

“あらかじめ、その前提を受け入れておく”

ということです。

なぜなら単純に、

問題が起こらない前提で問題が起こるよりも、起こる前提で起こった方が気持ち楽ですし、それが起こることがあらかじめ分かっていたらそれに対する準備もしておける、からです。

そして、そういう時期の真ただ中にある方に、僕が伝えられることとしては2つあります。

1つ目は、

「安心してください」

ということ。

どうしようもない絶望感があるということは、次のステージへ移り変わるという“合図”です。

そして、2つ目は少しだけ残酷なことに聞こえるかもしれませんが、

「この時期に必要なのは“捨てる覚悟”」

だということ。

何か新しいものを自分の器の中に入れようとするならば、古いものは捨てなければなりません。

全てを捨てきれない態度、責任感という美意識は日本人的な感覚では文字通り“美しい”ですが、僕らは決してスーパーマンではない、ということを忘れてはいけません。

この時期に求められるのは「残すもの」と「捨てるもの」これをハッキリとさせること。

なぜなら、全てを受け入れるには明らかに手に余るからこそ、大きな絶望感（アイデンティティクライシス）に陥っているからです。

この時期に必要なのは、目の前で起こっている数々の問題に長い時間苦しめられ、その場しのぎで先送りにし続けることなく、

何を捨てるかを決めること。

会社は倒産しないために赤字事業を切り捨て、倒産しないために増えすぎた従業員をリストラします。

問題は先送りにすればするほど後から大きくなって一気に破裂します。

この原理原則は会社のような組織だけでなく、個人でもいえることです。

問題を抱えたとき、決断は早い方が良い。

決断できずに時間だけが経過している間にも問題はどんどん増え続けるのですから。
(そしてエネルギーも消耗し続けます。)

僕の場合は、家族・会社・起業、という3つがありました。

が、明らかに3つは手に余る。

だから、会社は捨てました。

もう少し柔らかい言い方をすれば「優先度を下げた」わけでは

日本人的な「サラリーマン」の感覚である、会社に尽くすとか、会社に誇れる仕事をするとか、自己犠牲とか、

おおよそ日本の義務教育の中で“洗脳”的に植え付けられたものを捨てて、

そして、起業準備を優先させました。

「ここで会社の仕事から逃げるような無責任な奴が起業して成功できるわけがない」

なんていう、ちょっと偉ぶった奴が言いそうな根拠のない洗脳を無視して、残業は頑なに反抗して断ってきたし、育児休業だって取得した。

会社の優先度が下にきて、その上に家族と起業があるのだから、育児休業の取得というのは今考えてもベストな選択だったと思います。

あっ育児休業で思い出したんですが世間では「パタハラ」なる言葉がちょっと流行っていて、

男性が育児休業を取得するのに、職場の上司が精神的な圧力をかけることが問題になっています。

例えば、

「将来に響くよ」

「休業すると評価が下がる」

など。

これが原因で男性が育児休業を取得したくても取得できない。

みたいなことをこの前ニュースで見ましたが、

個人的に、そして率直に言わせてもらえば、

“バカ” なんじゃないかと思います。

この場合、上司がバカなのではなく、

取得したくてもできないと思ってるやつがバカ。

休めば普通に仕事をしている周囲に差を付けられるのは当たり前だし、

相対的に評価が下がってしまうのも当たり前。

長期間休むわけだから、場合によっては将来に響く可能性があるのだから当たり前だし、

普通の職場で普通に仕事をしているのなら、上司としてできれば休まず働いてもらいたいと思うのも当たり前。

何も捨てる覚悟がないのに、新しいものを手に入れることができると思っている典型的に与えられることしか頭にない人の発想です。

言い方を変えれば、エネルギーの低い人の発想。

そして、

「休むと給料の半分しかもらえなくなって生活が。。。」

と、働かなくても今までの生活を普通に与えてもらいたいと思っている。

(そもそも、戴けることをありがたいと思えない。)

挙句の果てに、

「育児休業を取得できる奴はいいなあ。」

と、指をくわえながら愚痴をこぼすことしかできない。

育児休業を取得する人が、どれだけリスクを負う“覚悟”をしているのかも知らずに。

別に僕は自分を着飾るつもりはないので、全てありのままをお伝えしましたが、

多分、僕のやり方はかなり泥臭いし、全然美しくないです。

残業は頑なに断るし、有給休暇も1日残らず全部使う、休暇と名の付くものは、たとえ給料が削減されるとしても全部使う。

周りから嫌味を言われようが、どれだけ評価に響こうが関係ない。
(なぜなら、優先度が低いのだから。)

そして育児休業も取得する。

グローバルスタンダードの中では不思議なことではないかもしれませんが、
“日本人的な感覚”で、ここまでやるやつは多分あまりいないと思います。
(少なくとも僕の周りにはいなかった)

が、決して僕は僕のやり方が“正しい”とは思いませんし、やり方は人それぞれです。

だけど、これだけは覚えておいてもらいたいです。

“新しいものを自分の器の中に入れようとするならば、古いものは捨てなければならない”

のだから、泥臭いやり方は次のステージへ進むために必要なことだと。

そして、それを乗り越えてこそ道は切り開けていくのだと。

捨てるものも残すものも、人によって違いますし、

天秤にかけるものも人によって違います。

僕はたまたま「家族・会社・起業」はそれぞれ大きいものだと思ってたからこそ、それを天秤にかけて会社を捨てましたが、天秤に乗せるものも人によってそれぞれですし、捨てるものも残すものもそれぞれです。

そしてもちろん、会社を捨てる必要がない人も大勢いるはずですし、
(言い方は悪いですが) 家族を捨てる必要がある人もいるかもしれません。

・・・というわけで、近年まれに見るくらいの熱のこもったメッセージに意図せずなってしまうかもしれませんが、ここ最近、あまりにも問題勃発メールをいただく機会が多いので参考にしていただければと思います。

最後までお読みいただきありがとうございました！

西（資格とっ太郎）